

(件 名) 紫尾山系の風力発電建設計画に関わる陳情書

(陳情の要旨)

この度、鹿児島県議会の議長に就任されましたことに対しまして、お慶び申し上げますと共に、更なるご活躍を期待しております。

私達は3年前、4市1町に位置する紫尾山系(1067m)の林道一体に、巨大風力発電建設計画(3社合計165基)が進んでいることを知りました。2020年11月、鹿児島県知事宛て要請書、更に改めて本年2021年5月に要望書の提出を行って参りました。

建設予定地は、両社共に主に県道46号阿久根東郷線、県道345号下東郷阿久根線沿いの、阿久根市鶴川内地区及び、薩摩川内市の藤川地区・吉川地区集落の真上に予定されています。住宅と風車が至近距離で、0.7~1.2kmと近く又、1基当たりの発電性能がこれまで国内では未稼働の4300kwという、とてつもなく巨大な風車を設置する予定であることです。

ローター(羽根)径120mより回転時発生する風切り音(騒音)と併せて、低周波音及び、超低周波音が真上の紫尾林道の建設地より四六時中、住民に届くことになり睡眠障害を端緒とした、様々な症状を生起する複合的な健康被害が懸念されます。

建設予定地は、国有林と民有林の水源涵養保安林区域が主要であり又、24年前に発生した鹿児島県北西部地震(震度6弱と5強)のほぼ直下、震源地であること。

更に紫尾山系は四万十層群と呼ばれる、もろい地層地形が特徴であり土砂災害が発生しやすい箇所では生活用水や農業・産業用水への影響も懸念されます。

昨今の異常気象による線状降水帯の集中豪雨やゲリラ豪雨等が現実に発生していることを考慮すると、建設により改変された山々の保水力が失われ、大規模な水害や土石流の危険性が増大します。

紫尾山は、中国の徐福が不老長寿の薬を求めてやって来た、串木野の冠嶽の徐福伝説にもいわれのある山で又、平安時代の歴史書「日本三代実録」にも記載がある北薩のシンボルの山です。

太古よりこの山を畏敬する人々の歴史文化に根差した想いは、北薩の学校の校歌に歌われ、九州100名山でもあります。その想いは今も4市1町で暮らす私達に息づいています。

その豊かな森林生態系の頂点にある猛禽類が、クマタカ(「種の保存法」指定種、絶滅危惧種I類)の存在です。準備書の段階の調査では、山系全体で23ツガイもの生息が確認されました。併せて出水平野で越冬する特別天然記念物指定のツル類が、建設予定の尾根々を越えて、薩摩川内市やさつま町又、伊佐市の地域を往来していることも明らかになりました。風車建設によりクマタカやツル類がローター(羽根)に接触して命を落とす、バードストライクや生息域の消滅により絶滅の恐れがあることや、ツルの分散化と併せて、出水市のツル越冬地のラムサール条約登録推進にツルのバードストライク等の、懸念があってはならないことだと思います。

以上の想いを、お汲み取りいただき、下記のことについて陳情させていただきま

す。

— 記 —

1. 住宅と風車が至近距離で0.7～1.2kmと近く，又1基当り発電性能がこれまで国内未稼働の4300kwという巨大な風車が設置される計画です。是非住民の健康不安の問題を現地視察して取り上げていただきたいです。
2. 近年全国で未曾有の土砂災害が全国各地で発生しています。当地は24年前に発生した地震の震源地です。現地でこのことをご確認され，住民の生活用水，農産業用水に被害が及ぶことのないようこの地を避ける提案を示していただくことをお願いします。
3. 当地出水市は鶴の越冬地でもあります。バードストライクを避けるべく，専門家の意見を取り入れた設置案を示して下さい。
4. 私共現地住民の意見をお汲み取りいただく公聴会の開催を，議会の皆様のお力で実現していただきますよう，ご尽力をお願い致します。

以上